

統合湯沢小学校の校歌は

問 教育長は、6月議会の答弁を翻し、7月の議員協議会では、「校歌は、新たに作る」と発言をされた。『室生犀星』作詞の校歌が歌い継がれなくなるのは、あまりに惜しく残念に思う。質問中の内容は、折原明彦著『校歌の風景―中越地区小中学校歌論考―増補版』から引かせて戴きます。子供たちが歌い継ぐ校歌は、どのような校歌が相応しいかを考えなければなりません。

▼経緯

「ふるさととは遠きにありて思ふもの」このフレーズは、小説『雪國』の冒頭以上に、日本人の心に浸透しているのではないかと思います。

県内ただ二編の『室生犀



とまさのきし
岸野雅人

つ目に、校歌にありがちな教訓めいた言葉がまったく用いられていない。三つ目に詞全体が情感にあふれ、文語調とあいまって、優美かつ格調高い感じがす

校歌の風景

—中越地区小中学校歌論考—

増補版

折原明彦



星』の作詞、作曲は音楽家ながら、芥川賞受賞の『由紀しげ子』。折原氏の著書には、校歌作成への意気込みから、関係者のやり取りなど、細やかに掲載されています。

▼校歌の詞の特徴

この校歌の詞は、次の点できわめて特徴的だといえる。まず、漢字がほとんど使われ

る。…中略…四つ目に、校名

がどこにも出てこない。表題さえなければ、湯沢讃歌とみられてもおかしくはない。

▼校歌選定の例(書簡の抜粋) 狭い教務室の真中に足踏みオルガンを持ち込み…中略

…三校舎の職員がそれぞれ順々に斉唱しあい、比較検討したわけです。

以上の理由と費用も考慮し、統合湯沢小学校の校歌には、室生犀星作詞の校歌が相応しいと、私は思います。教育長のお考えは。

答 【教育長】「オール湯沢」で臨みたい。新湯沢小学校の校歌は、

新たに作成する。湯沢に縁のある方にお願ひし、費用も抑えたい。新校舎に旧校歌等の展示スペースを設けたい。

『雪國』と『北越雪譜』の朗読は、どう活かされているか。

問 湯沢の教育に相応しい名文を取り上げ、朗読・暗唱に取り組むことを「教育課程に位置づけて取り組む」と、発言されました。

感性を磨きつつ、郷土を愛する心を養う、その絶好の教材が、小説『雪國』と名著『北越雪譜』の中にある。感性を磨く「湯沢学園」教育の芯となり得る。感性に知識は必ずついてくる。また生涯の財産となる。しかも、一日30



秒、すぐに実践出来る。あらためて、お考えは。

答 【教育長】地域の素材を洗い出し中、約80素材の中に含まれる。文科省の学習指導要領の外の、五・六年生向け総合的学習の時間に取り入れる。

統合後に始めたい。地域に学び地域に生きることの教材の一つとなると思う。

人口増への取り組みを

問 人口を増やしたい。これは、喫緊にして永遠の課題。湯沢町を訪ねるだけでなく、住んでみたくなるメニューを作り、発信する各課横断的なプロジェクトチームは作れないか。民間のアイデアも取り込み、隔たりなく考え、実践し続けなければならないと考えるが、どうか。

答 企業誘致は、各課横断的な調整が必要で、企業側からは、ワンストップの対応を求める声もある。各マニションには、お知らせコーナーを設置してもらっている。

職員減少の中、総務課で研究し、必要に応じ協議をする。